

各委員意見要約

1. 教育委員会の活動状況について
(原案の2～7ページ)

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
1	伊井	総合教育会議が設置されて三年目となりますが、教育委員会との連携の状況を簡単にご説明いただけませんか。	質問	総務企画課	教育大綱の作成及び方針に基づく取組みの実施。特に子ども・子育て支援については、市教委、保健福祉部が情報共有を行い訪問型の支援を行っており、その体制についても充実が図られています。
2	伊井	教育現場の視察は、どうしても学校行事の時となりがちですが、学校の「日常」を見る機会も設けられることを望みます。	意見	総務企画課	定例会以外にも参集いただく時間をつくっていることから、学校視察の時間に充てるなど工夫をしていきたいと思えます。
3	鈴木	変化に対応した施策が実施できるよう、引き続き積極的に教育現場の実態把握に努められ、情報収集・提供、学びの場の改善・充実されるよう望む。	意見	総務企画課	教育担当次長、参事、学校教育主事など教育現場を知る者が機会あるごとに学校を訪問し、実態把握に努めているほか学校への助言等を行いながら改善を図っています。

2. 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性

【重点テーマ1 自ら学ぶ意欲を育てる教育】

施策(大項目)1 生きる力につながる確かな学力を育む教育の充実

(原案の9～12ページ)

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
4	伊井	「小学校から中学校に学年進行するにつれ学力が向上している」→簡単に背景・根拠を説明していただけませんか。(昨年も意見として示されている経年的分析の状況も含)	質問	指導主事	石狩市では中学校3年生を除く全学年で、CRT(標準学力検査)を実施しております。その結果を経年変化で見ると学校や学年・学級により上下動や差が見られるものの、多くの学校・学年では年度を追った上昇傾向が見られている。
5	伊井	CRTは全国学力調査の前年度に実施されているのですが、その活用方法について説明いただけませんか。	質問	指導主事	各学校では、CRTや全国学力・学習状況調査の結果を基に児童生徒の実態を把握し、指導改善のための「学校改善プラン」を作成し、定期的な検証を行っている。
6	鈴木	「わかって楽しい学校(授業)」づくりを目指して、引き続き環境整備・指導体制の確立や学習指導の改善への取り組みを望む。	意見	指導主事	市教委からの学校教育指導(訪問)等を通じて、「わかって楽しい学校(授業)」づくりに向けた各学校の取組みを支援していきたい。
7	伊井	外部指導者や加配教員の事前事後研修などを実施する予定はあるのでしょうか。	質問	指導主事	事前事後研修の実施する予定はありません。しかし、現状としては、加配教員については、一般の教員同様、校内研修をはじめ道教委の研修に参加することができます。また、外部指導者につきましては、校内研修に参加するなどの取組みも行われております。
8	鈴木	SATほか外部支援員による学習支援の取組を評価するとともに、一層の改善充実を望む	意見	学校教育課	今後も各学校において、子どもの状況に応じたきめ細やかな指導が行えるよう、学校のニーズを考慮しながら外部指導者等の配置を行ってまいります。
9	鈴木	新学習指導要領の実施にともなうALTの役割の変化、教員の語学指導力向上への対応等一層の充実を望む。	意見	指導主事	市教委のALTの効果的な派遣とともに、道教委の事業である、小学校に対する巡回指導や、中学校の英語教員への指導力向上研修・語学力向上に向けた支援等を積極的に活用していきたい。
10	伊井	「市内幼稚園に通う市民の割合」の市民(母集団)は、全市民を示しているのでしょうか。	質問	総務企画課	市内の住民登録のある3歳から6歳の子どもを分母として、市内幼稚園と認定子ども園の幼稚園部に通園する人数の割合を出したものです。
11	鈴木	連携による情報の共有・分析・改善等は重要であり一層の充実に努められるとともに、乳幼児期の家庭への「子育て支援」にも取り組まれることを望む。	意見	指導主事	今後も、幼保小中間で情報交換、実践交流などを一層充実させ、子どもの健やかな育ちや充実した学びに向けて、連携し支援していきたい。乳幼児期の家庭への「子育て支援」については保健福祉部の取組にも協力していきたい。

各委員意見要約

施策（大項目）2 一人ひとりを大切にした教育活動の充実
（原案の13～15ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
12	伊井	13ページ下部にお示しの通り、次は「支援計画」や教育相談の質を向上させていく段階に入っていると考えられます。そのための方策に積極的に取り組んでいかれることを望みます。→どのような具体策を検討しているのでしょうか？	意見 質問	支援センター	支援が必要な子どもの実態やニーズは一人一人違い、ライフサイクルによっても変わっていくので、常にきめ細かい対応が求められます。教育支援計画の作成や教育相談を担当する指導者の質的向上のためには、受動的な研修を実施するだけでなく、より個に迫った相談や対応ができるようにアウトリーチしていきながら、支援の方策を掘り下げていく事例検討の手法を取り入れていきたいと考えております。
13	伊井	特別支援教育コーディネーターは、教員の異動などを見据えた長期的な視点になった養成・研修を望みます。	意見	支援センター	常日頃から具体的な支援につきましては、コーディネーターだけではなく複数教員と検討するよう努めることにより、コーディネーターを担当する教員の異動によって支援が途切れないよう留意していきたいと考えております。
14	向田	石狩市は、他市町村に比べて特別支援教育の支援体制が整っていると聞きます。引き続き、一人ひとりを大切にした支援をお願いいたします。	意見	支援センター	教育と福祉が連携しながら、一人一人に応じた途切れのない支援を早期から実施できるよう、今後共努めていきたいと考えております。
15	鈴木	個別多様な支援に対応できる「指導計画」の内容の充実に努めるとともに、専門性を高める研修による人材育成を望む。	意見	支援センター	個に応じた教育支援計画の充実に努めるためには、担当者の専門性の向上は欠かせないため、担当者の経験年数や必要なスキルに合わせた研修を実施していきたいと考えております。

施策（大項目）3 独自性が発揮できる魅力ある学校づくりの推進
（原案の16～19ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
16	伊井	研修活動については、セミナーの魅力があるからこそ、この数値が達成できているのだと思います。今後もより魅力のあるセミナーを企画していただくことを望みます。→教職員の「主体的・能動的」な参加、研究を進める取り組みの検討も望みます。	意見	指導主事	学習指導や生徒指導の充実に努める研修が道教委や各学校で行われている。石狩市としても市独自の教育活動への理解を深めるため、手話や俳句、地域素材の活用などの研修を行っている。市教委では、特色ある学校づくりを支援できるよう、引き続き、教職員の指導力や資質の向上を図る研修を推進していきたい。
17	向田	教職員研修の積極的な参加と、ビジネスマナーなどのプログラム構成に、人としての資質向上を目指す先生方の意識の高さを感じます。石狩市の教育基盤がよりよくなるように、これからも積極的な参加を期待します。	意見	指導主事	児童生徒からの信頼、高い授業力、教職に対する情熱、児童生徒に対する教育的愛情、ふるさと石狩への愛情、など、教職員の資質・能力の向上を図っていきます。
18	鈴木	研修は教員の指導力向上の要であり、自主的、組織的計画的な研究・研修の充実に努め、意欲的に取り組める環境づくりへの一層の支援を望む。	意見	指導主事	北海道教育委員会とも連携し、各種研修の機会の提供、研修に関する情報提供、指導者は派遣等により教員の自主的・主体的な研修活動を奨励・支援するよう努めていきます。
19	伊井	「学校力向上に関する総合実践事業」のように、指定校の実践成果が他の学校の取り組みに波及するような制度設計を今後も望みます。	意見	学校教育課	現在、石狩市では、花川北地区の小学校を中心とした「学校力向上に関する総合実践事業」と花川南地区の小中4校を対象とした「授業改善支援事業」に取り組んでいます。それぞれに授業公開、研修会の際には、市内全校に案内を配付し、その取り組みを広げていくことができるよう取り組んでいます。
20	鈴木	学校間、小中連携による学校改善の取り組み、地域の特性を活かした教育活動を継続して推進されることを望む。	意見	総務企画課	義務教育9年間を見通し、「目指す子ども像」の実現のために、小中の円滑な接続、指導の一貫性の確保など中学校区の小中で連携を強めながら取り組みを進めています。また、ふるさと教育など地域の特色を生かした学校づくりができるよう地域の協力をこれまで以上に引き出しながら取り組んでまいります。
21	伊井	ホームページ更新や学校便りは、学校の教育成果は重要な広報手段であることは間違いありませんが、教員の過度の負担にならないよう、他地域ではフォーマットを行政が示した上で、各学校の特性を出すよう工夫するなどしているようです。	意見	学校教育課	石狩市においてはホームページ等のフォーマットを規定しておりませんが、更新の負担軽減と内容の充実のため、希望する学校へは簡単に使用できるホームページ作成のシステムを紹介するなど、それぞれの学校で独自色を出した情報公開ができるよう支援しているところです。今後も引き続き、教職員の負担が増えない形で「開かれた学校づくり」を推進してまいります。
22	鈴木	学校統合を機に地域の教育力を活用し、新しい「石狩の教育」の創造への挑戦を期待したい。	意見	総務企画課	厚田区、石狩・八幡地区の統合では、両校ともコミュニティ・スクールとして再出発します。特色あるふるさと学習が実施できるように、これまで以上に地域の協力を得られるよう努力していきます。また、厚田では小中一貫校ともなりますので、最大限そのメリットを生かせるよう教員の協力を得ながら開校に向けて準備してまいります。
23	伊井	働き方改革の面からも、部活動の取り組みもぜひ考えていただくことを望みます。	意見	学校教育課	部活動休業日を設定するほか、部活動顧問の補助を行う部活動外部指導者を、各校の状況に応じて拡充してまいります。またその中で国の施策である外部指導員の担い手の発掘を図り、教職員の更なる負担軽減に繋がるよう進めてまいります。

各委員意見要約

施策（大項目）4 学校教育を推進する環境の充実
（原案の20～22ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
24	伊井	昨年度申し上げたことと継続していますが、PCは導入もちろんですが、その活用と維持がそれ以上に労力を割かれます。その点の学校・教育委員会としての工夫を一層望みます。	意見	学校教育課	パソコン等 ICT 機器導入及び更新につきましては、研修を行うなど学校においてスムーズな活用ができるよう取り組んでいるところです。また市教委、保守業者、ICT 支援員によるサポート対応を適宜行っており、引き続き教職員の更なる負担軽減に繋がるよう支援してまいります。
25	伊井	耐震構造など、一層の強化を望みます。	意見	総務企画課	校舎・屋体については、耐震診断を行い必要な耐震補強を行っていますが、今後、本市において課題となるのは非構造部材の耐震化です。特に、人口が急増した S50～60 年代に建設した学校が改修時期を迎えていることから、国から求められている長寿命化計画を策定し大規模改修を行ってまいります。
26	向田	石狩市の広大な面積や少子化、教員の配置数を考えると、将来的にはネット配信による遠隔授業等、通信教育を取り入れる教育システムを考えていく必要が有るのではないのでしょうか。	意見	学校教育課	遠隔教育の推進については、現段階では効果的な指導方法等実践の蓄積が少ないため、今後の道施策等を注視しつつ、将来的な施策に向け情報収集を行ってまいります。
27	鈴木	危機管理体制の整備、防災教育の徹底など一層の充実を望む。	意見	学校教育課 総務企画課	危機管理については、学校ごとに「危機管理マニュアル」を作成し、避難訓練や校内研修などを毎年実施しておりますが、胆振東部地震の経験を踏まえて危機管理能力、実践的対応力の一層の向上を図っていきたいと思います。また、防災教育についても次年度より石狩市を題材とした授業を小学校で実施していく予定です。
28	伊井	子どもやその家庭への支援は、包括的な取り組みと同時に、個別的なニーズを拾い上げることも大切だと考えます。学校や家庭との一層の連携を望みます。	意見	学校教育課 支援センター	就学援助費、就学奨励費や奨学金の支給により経済的支援を行うほか、個別的なニーズについては、スクールソーシャルワーカー等による学校巡回などを通じ把握し、引き続き学校や家庭と連携しながら個々のケースに丁寧に対応してまいります。
29	鈴木	市独自の経済的支援の充実とともに、「子ども総合支援本部」の活動の充実を望む。	意見	学校教育課 支援センター	就学援助費や奨学金の支給により経済的支援を行うほか、当該本部等においては、要支援児とその家庭への総合的・効果的な支援策の構築のため関係機関が連携し、情報を共有ながら引き続き対応してまいります。
30	伊井	給食は、食育に関連する最も実践的な教材だと聞いたことがあります。地元産の食材とふるさと学習などの連携を一層望みます。	意見	給食センター	学校給食に地元産の旬の食材を取り入れることは、子どもたちが地域のことを学び、郷土愛を深めることにつながります。5,000 食分のロットの確保及び価格面を考慮しながら、できる限り多くの地元産食材の使用に努めてまいります。
31	鈴木	豊富な石狩産食材を多く活用することで、石狩の良さを学ぶ「ふるさと学習（食育）」を推進し、早期の目標達成を期待したい。	意見	給食センター	

【重点テーマ2 思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育】

施策（大項目）1 豊かな人間性と感性を育む教育の推進
（原案の23～28ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
32	伊井	さまざまなイベントや取り組みと、日常の学校教育のつながりを一層重視していくことを望みます。	意見	社会教育課	アンケートや聞き取りなどにより学校の意見を把握することで効率的かつ学校との十分な連携を意識した事業辞しに引き続き進める。
33	向田	児童生徒が様々な事に興味を持ち、取り組むことが出来る体制の充実を引き続き図って頂きたい。	意見	社会教育課	今後とも関係する団体や学校と連携を図りながら、引き続き取り組む。
34	鈴木	質の高い文化・芸術に触れる（体験）ことは、豊かな情操を育むうえで大切であり、親子で参加できる機会を多くするなど今後も事業に充実を望む。	意見	社会教育課	それぞれの事業の趣旨成果と課題を検証し、効果的な事業展開を図るため提言も参考にしながら取組を進める。
35	伊井	「読書好き」の結果は、毎年増減を繰り返しており、それに一喜一憂する必要はないと考える。しかし、全体的な傾向としては減少しているので、長いスパンの中で増加させるような取り組みを諸機関と連携して実施していくことを望む。	意見	図書館	平成 29 年度からは全校への学校図書館図書費増額などによる蔵書の更新や、今年度からは中学校への学校司書派遣を開始し、中学校の学校図書館環境整備を進めており、成果が出るのは少し先かと考えるが、児童・生徒にとって身近な学校図書館の整備・充実に引き続き取り組んでいく。 また、発達段階に応じた諸機関との効果的な連携のあり方を検討していく。

各委員意見要約

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
36	伊井	就学前や低学年の子どもたちを対象とした「リテラシー向上」の取り組み(ブックスタート)は、その後の学力にも影響もあるため、ぜひ充実を図ってほしい。	意見	図書館	平成17年度に0歳児と保護者を対象としたブックスタートを開始した後、平成22年度には1歳6ヶ月会場でのブックスタートフォローアップを、そして平成28年度には第2のブックスタートとして就学時健診会場でブックリスト配付と司書による声かけ、学校図書館へのブックリスト設置など、乳幼児から低学年までの一連の読書習慣の定着化の取組を進めている。 なお、この発達時期は子どもたちの周囲の大人の意識が大きく影響することから、家読の推進や効果的な諸機関との効果的な連携のあり方を検討していく。
37	鈴木	幼児期に本(絵本)に触れることは感性を磨くうえで重要であり、現行の取組みを充実させるとともに、ネットワーク化を幼・保(認定こども園等)にも拡大し、図書館司書による家庭への啓発活動を推進されることを望む。	意見	図書館	幼児期は子どもたちの周囲の大人の意識が大きく影響することから、効果的な諸機関との効果的な連携のあり方を検討していく。
38	伊井	日頃の子どもたちの生活の充実のためにも、学級経営に関するセミナーなどの開催も必要ではないでしょうか。(既に実施されているかもしれませんが)	意見	支援センター	円滑な学級経営に資するため、学級内での人間関係を推し測る心理テスト(Q-U検査)を年2回全校で実施しています。テスト結果から得られたデータの活用方法はスクールソーシャルワーカーが校内研修の中で取り進めるなどし、個人や集団の状態に応じた支援・指導に役立っています。
39	鈴木	いじめの早期発見・適切な対応のための体制の構築、信頼関係に基づく方策と支援を望む。	意見	支援センター	市と教育委員会は平成29年12月にいじめ防止基本方針を改定したほか、いじめ防止対策法に基づき「いじめ防止対策組織」を設置するなど、いじめ防止等の対策に取り組んでいます。また、学校ではいじめ事案について教職員が一人で抱え込まず、学校内に設置している「いじめ防止対策委員会」で事案の情報を共有のうえ、学校として組織的に対応していることに加え、いじめの防止に向けた好ましい人間関係が保たれた学級づくりなどの取り組みとスクールカウンセラーなどによる教育相談体制の充実を図っています。

施策(大項目)2 心身の健やかな成長を促す教育の推進

(原案の29～32ページ)

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
40	鈴木	全員が参加できる1校1プランの取組みのさらなる工夫に努めるとともに、地域の遊びの場の整備活用(スポーツの日常化)をはかり、指導員の養成・派遣等の充実を望む。	意見	指導主事	引き続き各学校での体力づくり(1校1プラン)の改善充実を図るとともに、地域資源の活用、関係団体とも連携し、多くの児童生徒が運動に親しみ、体力向上を図ることが出来るよう学校に働きかけていきます。
41	鈴木	食に関する指導は、マニュアル化した指導の徹底と、専門機関と連携して地域・保護者の積極的な参画による事業の推進を望む。	意見	給食センター	学校における食に関する指導は、栄養教諭が中心となり進めています。今後も地域の生産者等の参画を働きかけながら食育を推進してまいります。
42	伊井	生活習慣の確立は体力面だけではなく、学力にも相関性を持ちます。押し付けがましくなることなく、家庭との連携を通して、生活習慣の確立を目指す一層の取組を望みます。	意見	社会教育課	生活リズムチェックシートや生活習慣改善チラシを活用し、家庭や学校と連携しながらよりよい生活習慣の確立に努める。
43	向田	様々な家庭環境がある中で、望ましい生活習慣の定着を進めていくのは難しいと思います。望ましい生活習慣の指導と同時に、現状を把握する事も重要と感じますので、引き続きの取組を望みます。	意見	社会教育課	市P連など関係機関と連携を図り、保護者アンケートの実施や分析評価に努める。
44	鈴木	専門家や市P連などと連携して、子育て家庭への地道な啓発活動を継続的に推進されることを望む。	意見	社会教育課	関係機関と密に連携し、継続的に取り組む。

各委員意見要約

【重点テーマ3 地域で育ち・学び・生きる教育】

施策（大項目）1 次代を担う子どもたちの健やかな育ちの支援

（原案の33～34ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
45	伊井	情報入手経路の多様化にどのように対応されているのでしょうか。（特にデジタル）また、9月の震災のような緊急性を伴う事態での対処の充実を望みます。	質問 意見	総務企画課	メール配信サービスはホームページ上で登録をお願いしているもので、配信内容は不審者・防犯情報、緊急災害情報、ごみ収集情報、道路公園下水道情報、観光情報などを選択して配信を受ける仕組みとなっています。市教委としてこの取組が認知されるよう周知を行ってまいります。ご指摘の多様化については、今後の検討課題とさせていただきます。
46	鈴木	「子どもの人権尊重」について、学校・家庭・地域が取組み支援する活動の積極的推進を望む。	意見	学校教育課	今後においても、子どもへの暴力防止プログラム（CAPプログラム）を実施し、子どもの人権尊重、暴力防止等について子どもと大人がともに学び考える機会を提供していきます。
47	伊井	子ども110番は実際に活用された事例があるのでしょうか。（活用されない安全な環境が一番なのですが）	質問	支援センター	「子ども110番の家」は平成11年4月に発足していますが、活用事例はありません。今年3月末時点の登録状況はおよそ860件であり、引き続き子どもの緊急避難場所としての位置付けのもと取り組んでまいります。
48	鈴木	見守り活動がどのように機能しているか、現状と課題を明らかにし、より充実した支援体制ができるよう望む。	意見	支援センター	登下校時には教職員やPTA、町内会など地域ボランティアの方々で見守り活動に取り組んでいただいておりますが、ボランティアの高齢化が進んでいるほか、なり手の確保がままならない学校もあります。今後、見守りの体制について、学校などと検討してまいります。

施策（大項目）2 地域づくりに活かされる生涯学習環境の充実

（原案の35～37ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
49	伊井	生涯学習に対するアンケート結果が改善されていることは、日頃の社会教育の成果だと思えます。一方、昨年「意見」にもありますが、アンケート項目が一層精緻になると「推察される」の箇所において、エビデンスに基づいた報告が可能ではなると考えます。	意見	社会教育課	アンケートは市全体の幅広い項目を対照に実施しており、独自性は非常に出しづらい。
50	向田	高齢化社会において、ますます生涯学習の場は必要と思えます。今後も、継続されることを望みます。	意見	社会教育課	今後とも市民カレッジやはまなす学園など今後も継続して学習機会の提供に取り組む。
51	鈴木	市民カレッジが他の市民団体と連携して活動の活性化に寄与していることは評価できる。今後は関係職員の専門性を発揮され、生涯学習活動の担い手育成のための支援体制充実を望む。	意見	社会教育課	社会教育主事の専門性を活かし、ボランティアを養成する活動・講座を引き続き実施し、活動の担い手の育成支援に努める。

各委員意見要約

施策（大項目）3 学習の拠点としての図書館サービスの充実
（原案の38～40ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
52	伊井	子どもたちからの「〇〇について調べたい」という依頼は、「学力」向上ともつながる重要な依頼と考えます。派遣なども含めた、市内諸学校との一層の連携を望みます。	意見	図書館	学級単位の調べ学習利用の受入や、市民図書館及び学校司書が調べる学習コンクールに向けて調べ方を指導する「夏休み特別講座」の開催、調べ学習講座の出前の他、日常的には学校からの依頼に応じた調べ学習用の図書の配送など、学校との連携のもと、子どもたちの調べる環境の充実に取り組んでいる。 今後も市民図書館の資料と人材（司書）が有効に活用されるよう、学校や配置・派遣している学校司書と連携して取り組んでいく。
53	伊井	「本を読む・借りる」以上の機能・サービスが図書館には今後一層求められると考えます。そして、その充実が利用者拡大にもつながると考えます。	意見	図書館	昨年、市民に対して行なった図書館アンケートでは、図書館に行く理由を訊いたところ「本を借りる、読む」以外に、「調べもの」や「イベントへの参加」「パソコンブースやWi-Fiの活用」「喫茶コーナーの利用」など、様々な理由で市民が図書館に足を運んでいる状況があらためて確認された。 これからも市民の生活実態や社会情勢を意識し、市民は何を図書館に求めているのか、必要な協議と取り組みを行い、常に多くの市民に利用される図書館となるよう努めていく。
54	伊井	紙媒体ではなく、デジタル媒体に関する将来的な展望をお聞かせください。	質問	図書館	特に石狩市に関する貴重な資料の保存や提供において、デジタル化は有効であると認識しており、紙媒体で閲覧に供している資料のデジタルデータの整理や提供のあり方について検討を進めている他、劣化により再生が危ぶまれるビデオや16ミリテープのDVD化を毎年進めている。 一方、関連技術の進歩は日進月歩であり、また本市の状況を踏まえたデジタル化の目的の更なる明確化や、市民ニーズの把握など、情報収集を行いながら検討しているところであり、今現在は包括的な展望を持つに至っていない。 今後も資料の必要なデジタル化を進めながら、本市の状況にあったデジタル媒体の扱い方について検討を続ける。
55	伊井	年齢的・地理的に来館が困難な方へのサービスの充実も望みます。	意見	図書館	まずは、現在実施している、宅配による貸出サービスや、分館での本館の本の取り寄せといった最寄りの分館で可能なサービス、小学校等への返却ボックスの設置など、家に居ながら、もしくは居住エリアで利用できる便利なサービスのPRを進めている。 今後は各地域における分館サービスの充実のほか、他部署との連携の可能性を踏まえ引き続き検討していく。
56	向田	図書館の重要性・必要性は変わらずあると思いますが、図書館に足を運べなくても、情報を得たり、伝えたり、レファレンスを適時におこなう手段として、ネット環境を利用したサービスを考えていく必要が有るのではないのでしょうか。	意見	図書館	現在、図書館独自のホームページを開設し、蔵書の検索や予約申込、開館日案内のほか、イベント案内では開催案内や開催した様子など、図書館が何をやっているか、身近に感じてもらえるよう情報発信している。 現在採用している図書館システムを変更する際には、ネット環境を活用した効果的なサービスを検証していきたいと考えている。
57	鈴木	図書館利用困難者への対応として、ネットワーク化による学校や町内会館等の拠点施設を設けてサービスすることはできないか。	質問 意見	図書館	学校の図書館は子どもにとって毎日通う最も身近な図書館であり、ネットワーク化による子どもの利用環境の向上は検討しているところ。ただし、一般の利用にあたってはセキュリティの面から難しい場合が多い。 町内会館等の施設の何らかの形で活用については、ニーズの把握や効果など、検討が必要と考える。

施策（大項目）4 石狩文化の活用による自主的・主体的活動の支援
（原案の41～42ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
58	伊井	三会場の特色を理解した取り組みは魅力的ですね。今後も、推進されることを望みます。また、日程的に難しいのかもしれませんが、三会場を周遊できるプランなどがあれば参加者にとって、心揺さぶられると思います。	意見	社会教育課	会場間では人や作品の交流が徐々に深まっているが、今後、実施時期やあり方など含め、実行委員会にて協議検討する。
59	伊井	交付金の交付団体も、昨年度と継続している団体と新規の団体のバランスは良いと考えてよろしいでしょうか。そうであるならば、この点は高く評価できるかと考えます。	質問	社会教育課	全市の文化振興を図る「石狩市文化協会」と赤レンガ倉庫を生かした文化活動を行う「アートウォーム」に対してそれぞれ拠出金・交付金を継続的に交付しており、芸術文化振興奨励費補助金は毎年一般公募により応募団体を募っています。

各委員意見要約

施策（大項目）5 ふるさとを学び伝える取組の充実
（原案の43～44ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
60	伊井	これまで以上に、ふるさと学習を含む、魅力的な講座などの企画が開催されることを望みます。	意見	文化財課	ふるさと学習は、小学校、大学、教員など、先方からの要望にこたえて幅広い内容で行っていますが、今後も要望にできるだけ広く応えるようにしていきます。また一般向けの講座も頻繁に開催していますが、今後は、石狩の自然や歴史の基礎を広い層に知ってもらう講座（座学など）や標本製作や資料整理（博物館活動）を担える人材の育成につながる専門的な内容の体験講座などに注力することを考えています。
61	鈴木	ふるさと学習充実への積極的支援を望む。	意見	文化財課	
62	伊井	想定外の災害にも対応できる、文化財保護のインフラ整備を望みます。	意見	文化財課	現在、本市の文化財資料の収蔵環境は決して十分とはいえないため、まずはこの点の改善を図る中で、災害対応についても検討していきます。
63	伊井	学芸員の専門性の向上を図るための外部研修や研究活動などの充実も望みます。	意見	文化財課	学芸員は、例年、外部の研究会や研修会に参加して研鑽を積んでいるほか、学会発表、論文投稿、資料館紀要の執筆などで研究成果を還元しています。こうした活動は、学芸員にとって不可欠のものなので、今後も充実させていきたいと考えます。
64	鈴木	歴史的、文化(自然)遺産の発掘、保存、活用に向けた活動への支援の充実を望む。(現地保存、標識や案内板の設置等)	意見	文化財課	平成29年度は浜益区の歴史的建築物調査及び史跡荘内藩ハママシケ陣屋跡の通路整備・看板設置を行いました。今後もこうした取り組みは継続的に行っていきたいと考えます。
65	伊井	『鮭の博物誌』の編集計画は打ち切りとありますが、今後の展開はどのようになるのでしょうか。	質問	文化財課	平成30年度補正予算で「市誌資料・叢書発刊事業」が計上されました。今後は市総務部が主管となり、将来の石狩市誌発刊に向けた資料となるべき史実を書籍にまとめ、順次発刊を目指すことになりました。鮭の博物誌で明らかにしようとしていた「石狩と鮭との関わり」に関する事項も、この事業の中でカバーすることが想定されています。市教委としても、これまで蓄積した知見や資料等を提供するなど、この事業の円滑な推進に取り組みます。
66	鈴木	鮭の博物誌について、蓄積された資料を検証吟味し、体制を再構築して刊行されることを望む。	意見	文化財課	